

2月27日アース21札幌特別例会議事録

●各建材の展示会での新商品と感想を含めた最近の状況。

- ・断熱ドアでK値が1, 5の親子ドアがでていた。
- ・道産の高級フローアが気になった(鈴木トレーディング)。地産地消の観点から使ってみたいと思うが。
- ・樹脂サッシトリプルのガラスK値1. 23でシャノンから出ていた。スぺーシアより安くペアの30%UP位だと思う。
- ・まきストーブを探していたらペレットストーブ兼用タイプに行き着いたが安くてエコか？ ただ煙突が断熱仕様のため値段が高い(40万程度)FFはメンテ費用に4, 5万かかる。年間のペレットは燃料費として10万位。気密している住宅なら換気が足りなくて燃焼しないから吸気に床下エンビパイプ(100~150パイ)にパイプファンをかますと燃焼効率が良い。
- ・確認申請の件、遅い7週間で申請が降りる様になった。RCと木造の混構造500㎡以内はOKだが超えたら申請は受けてくれない。3層のスキップの場合は2階と3階で別々に計算し提出したらOKだった。国交省は答えを持っていないから民間の様子を見ているとしか思えない。
- ・ファイバーシングル韓国で生産のが(ビシテック)防火認定品で価格の安くできます。この商品は他の商品と比べて糊づけが容易なのが利点。11月には防火の申請を行う段取り。

●丸十木材から情報提供。

- ・木材合板の市場については、カナダでは現地価格が10年前の水準まで安値が進み、更に為替差損で収益を圧迫しての工場閉鎖が相次ぐが(既に3か所閉鎖)、2x4材は安値安定、合板はやはり底値(安値)で推移しているが反発して値上げの動きが出ている。OSBはカナダ物が復活、現状が底値だろう。集成材は主にユーロ圏からなので在来材(ホワイトウッド)と共にユーロ高のため高値のままである。
- ・Iジョイストは変わらず(本当は為替で安くなってきています)で、国内でIジョイストの協会が出来た。これにはCOFIも参加している。

●暖房と基礎方式について

- ・札幌は基礎断熱が多くH600~700、水が入る場合があるのでGLより50上げて施工。床下空間は大きいと熱容量も大きいが長年の間に蓄熱される。
- ・床下に蓄暖むずかしいが、武部さんのように成功しているのもある、蓄暖を囲ってスリットから上げるのも一つの方法か？
- ・サーマスラブ、エナーテックなどヒーターを埋め込む方式もあるがどれがいいのか？
- ・土間床にパイピング、エクセルパイプをピッチ200^{mm}、1階部分で4回路での施工が多い。
- ・いずれにしろ、地域により随分差がある。
- ・これからは電化=CO2削減にならない、ガス、ペレット、太陽光なども考えなければ、と確信にはならない話になったが、ヒントはあった。
- ・温水だと問題ないが蓄暖だと難しい。スラブにヒーターを入れるのは電化でも結果は良かった。
- ・サーマスラブ(土壌蓄熱)の事例では地中熱があるのでかえってFP板を入れない方が結果が良かった。
- ・1階はペレット、2Fはオイルヒーターの組み合わせなんかも良いかもしれない。ランニングだ

けでなくライフサイクルコストも考えてトータルでCO2が少ない家づくりが省エネではないか？機器の製造時のCO2排出も実は甚大だ。

・暖給一体は続けるべきなのか、このまま電化を続けて良いのか？

●空気環境測定を受けての話



写真左から抗酸化溶液を内装材に混ぜてコンパネに塗っている様子。抗酸化溶液入りと無しを比較している様子。

・まずは内装材のホルムアルデヒドが100分の1に低減した。

・F☆☆☆☆が出てからも問題は出ているので安心は出来ない。他の物質は放散しているので6物質の測定は是非やって欲しい。費用は3万円程度で出来る。クレーム対策にもなる。

・引き渡しの1週間前に検査すれば対処できる。(以上、伊藤氏)

・実験として2枚のシナベニアに抗酸化溶液入りと無とで、内装材を塗り、乾かしてから匂いを嗅いでみた。全く差が出る結果になった。ほぼ30分であの嫌な匂いがきえた。

抗酸化EM菌なのか？EM菌に類する液と樹液からとりだした酵素を入れているとか？

アルカリ活性水にうすめるのがベスト。基礎断熱の内部のコンクリートにはライフクリンコート
を吹き付けるとコンクリートの匂いや粉を固定できるそうです。

いずれにしろ、冬の工事には注意すること、現場の大工さんなどの被爆をさけるように

換気には気をつけること。引渡し前には最低30℃で72時間以上のベイクアウトに心がけること。

以上。